

一緒に昼食 学年超え交流

三戸高 県立初 魅力向上の一環



清流会館に集まり、三戸町が用意した昼食を取る三戸高校の生徒

県立高校再編の第2期実施計画（2023～27年度）で、県外から生徒を受け入れる「全国募集」導入校となった三戸高校で、魅力向上の一環として10日から、三戸町が生徒会館「清流会館」で昼食提供を行っている。昼食提供は県立高校で初。昼食時の同会館は学年を超えた交流の場ともなっており、27日は1～3年生が同会館に一堂に会し、談笑しながら温かい昼食を食べた。

昼食は、町給食センターが調理した、小中学校の給食で提供しているものと同じ内容で、この日のメニュー

はニンシンの照り煮、野菜炒め、野菜たっぷり吉野汁、ご飯、牛乳。同校では月ごとに希望を取っており、1食当たり材料費300円の負担はあるが、4月は全校生徒の3分の2に当たる58人が申し込んでいる。

味もおいしい」と話した。一緒に昼食を取っている豊川武伸校長は「生徒たちは楽しそうに昼食を取っている。温かい食事が取れ、保護者からも弁当を作る負担が減るという声が届いている」などと話した。（珍田秀樹）